

一般社団法人 日本土壤肥料学会 2019 年度通常総会

議 事

第 1 号議案 2018 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告

I. 2018 (平成 30) 年度事業報告 (平成 30 年 3 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日)

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

- 1) 日本土壤肥料学雑誌 (会誌) は、第 89 巻第 2 号～6 号、第 90 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は次のとおりである。報文 17 編、ノート 12 編、技術レポート 4 編、講座 4 編、総説 1 編、資料・国内外情報等 38 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 2 編、奨励賞受賞論文要旨 2 編、技術奨励賞受賞論文要旨 3 編、進歩総説 13 編、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.64 掲載論文要旨、合計 614 頁、ほかに第 89 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壤教育活動だよりを含む) 等。
- 2) Soil Science and Plant Nutrition (欧文誌) は、Vol.64, No.2～No.6 および Vol.65, No.1 の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 84 編 (Full 74 編、Short 10 編)、総説 2 編、会誌報文抄録等、合計 786 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 9、正会員 316 (うち海外 25)、学生会員 74 (うち留学生 72)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 21 等であった。
- 3) 日本土壤肥料学会講演要旨集 (第 64 集、304 頁) を 2018 年度神奈川大会に際して刊行した。

(2) その他の刊行物

日本土壤肥料学会の編集による Springer 社からの The Soils of Japan の刊行については、執筆が終わり、とりまとめ中である。日本の土壤の生成因子、分類、分布、特徴とともに、北海道、東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿・中国・四国、九州・沖縄における「土壤と農業・環境」を 6 支部が紹介する。

2. 講演会および研究会等の開催

(1) 「土と肥料」の講演会

2018 年 5 月 12 日、通常総会終了後に、東京大学弥生講堂において「土と肥料」の講演会を開催した。テーマは「食と農の将来を支える土と肥料の課題と展望～変動の時代における地力と資源循環の視点から～」、講演者と演題は金田吉弘氏 (秋田県立大学)「近年の大型機械化と多様な水稻栽培における水田土壤の課題と対応」および浅野智孝氏 (朝日工業株式会社)「地域資源を活用した混合堆肥複合肥料の開発経過と特性」であった。本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施した。

(2) 2018 年度年次大会等

- 1) 2018 年 8 月 29 日 (水) ~31 日 (金)、日本大学生物資源科学部 (藤沢市) において年次大会を開催した。口頭発表題数は 235 題、ポスター発表題数は 242 題、合計 477 題であった。大会への参加者数は 849 名であった。
- 2) シンポジウムは、日本農芸化学会との合同企画シンポジウムおよび公開シンポジウムを含めて 8 つのテーマのシンポジウムを実施した。
 - 5,6,8 部門：土壌の生産力を持続可能にしよう！ -The Soils of Japan-
 - 5,9 部門：人為圧が決める土壌の境界線
 - 3,4,7 部門：【日本農芸化学会との合同企画シンポジウム】植物・微生物機能の解析・制御と食糧・バイオマス生産への応用展開
 - 2,4 部門：リン最前線：分子から圃場レベルの土壌肥料学と植物栄養学の連携
 - 9 部門：土壌倫理の射程 一食と農、リスク、未来世代—
 - 5,6 部門：【公開シンポジウム】富士山噴火は土壌、農業へどのような影響を与えたのか 一学際的視点からみる関東南部—
 - 4 部門：作物生産における酸化ストレス：傷害機構、耐性機構、危険予知による回避
 - 9 部門：【公開シンポジウム】いま改めて問う、土をどう教えるか—土壌教育の再設計と未来の学習指導要領—
- 3) ミニシンポジウムは、以下に示すテーマについて実施した。
 - 3 部門：菌根菌による有機態リン利用の可能性—現象・生理・分子—
- 4) 日本大学生物資源科学部本館大講堂において、以下の講演が行われた (8/30)。
 - 第 63 回日本土壌肥料学会賞受賞者
 - ・石黒宗秀：土壌中における水・溶質移動と界面電気現象に関する研究
 - ・信濃卓郎：作物生産向上のための根圏環境制御に関する植物栄養学的研究
 - ・白戸康人：土壌炭素動態モデルを活用した農地土壌への炭素貯留の評価
 - 第 23 回日本土壌肥料学会技術賞受賞者
 - ・伊藤豊彰：有機性資源の新しい活用法等を基盤とする環境保全的肥培管理技術に関する研究
 - ・清水 武：作物の養分ストレスに関する研究
- 5) 第 36 回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者 (大森良弘、清水真理子) 及び第 7 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者 (東 英男、鎌田 淳、松本武彦) の記念講演については、神奈川大会一般講演会場で行われた。
- 6) 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者 (八木哲生、松本武彦、大友 量、小林創平、三枝俊哉、岡 紀邦)、(松本成夫、織田健次郎、三輪睿太郎) 及び SSPN Award 受賞者 (Junta Yanai, Hiroshi Taniguchi, Atsushi Nakao) については、神奈川大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。

(3) 2018 年度支部大会

- ・北海道支部：秋季支部大会およびシンポジウム (11/29 於旭川市民文化会館 旭川市) が開催された。講演題数はポスター発表 44 題、高校生による研究成果発表 1 題であった。
- ・東北支部：支部大会 (7/3~4 於青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッ

セ 青森市) が開催された。講演題数は口頭発表 8 題、ポスター発表 11 題、合計 19 題であった。

- ・ 関東支部：支部大会 (12/1 於朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 新潟市) が開催された。講演題数はポスター発表 72 題であり、高校生による研究発表が 3 題、農業大学の研究発表も 1 題あった。
- ・ 中部支部：第 98 回支部例会 (11/29 於静岡大学静岡キャンパス農学部棟 静岡市) が開催された。講演題数は、口頭発表 7 題、ポスター発表 9 題であった。
- ・ 関西支部：支部大会 (12/6 於松江テルサ 松江市) が開催された。講演題数は口頭発表 36 題であった。
- ・ 九州支部：支部例会 (9/12～13 於東海大学熊本キャンパス本館 熊本市) が開催された。講演題数は口頭発表 13 題、ポスター発表 2 題であった。

(4) その他

- ・ 日本農芸化学会 2018 年度大会 (名城大学天白キャンパス) において、日本農芸化学会との合同企画シンポジウム「生物による無機元素の認識と反応の新展開」を開催した (3/16)。
- ・ JST 俯瞰ワークショップ「フューチャーグリーン～持続可能な農林地利活用を目指して～(3/19)」に、講演者を派遣した。
- ・ 日本地球惑星科学連合 2018 年度連合大会 (5/20～24) のセッション「Materials transport and nutrient cycles in watersheds; Human and climate impacts」を共催した。
- ・ 第 31 回環境工学連合講演会 (5/22 日本学術会議講堂) を共催した。
- ・ 第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会 (7/4～6) を協賛し、運営委員を交代した。
- ・ 第 28 回環境工学総合シンポジウム (7/11～12 早稲田大学西早稲田キャンパス) を協賛した。
- ・ 施設園芸・植物工場展 (GPEC 7/11～13 東京ビッグサイト) を協賛した。
- ・ 神奈川大会において、日本農芸化学会との合同企画シンポジウム「植物・微生物機能の解析・制御と食糧・バイオマス生産への応用展開」を開催した (8/30)。
- ・ 神奈川大会公開シンポジウム「富士山噴火は土壌、農業へどのような影響を与えたのか 一学際的視点からみる関東南部一」に関連して、日本ペドロロジー学会「プチ巡検 2 (9/1～2 神奈川県、山梨県)」を共催した。
- ・ 第 62 回粘土科学討論会 (9/10～11 早稲田大学西早稲田キャンパス) を共催した。
- ・ 地盤技術フォーラム 2018「土壌・地下水浄化技術展」(9/26～28 東京ビッグサイト) を協賛した。
- ・ NARO-FFTC-MARCO 国際シンポジウム「アジア・太平洋地域の小規模農家へ貢献する気候変動対応型農業」(9/27～29) を後援した。
- ・ 第 13 回エコバランス国際会議 (10/9～12 国際ファッションセンター 東京都墨田区) を協賛した。
- ・ 第 17 回世界湖沼会議 (いばらき霞ヶ浦 2018 つくば国際会議場 10/15～19) を後援した。
- ・ NARO-MARCO 国際シンポジウム「東アジアにおける窒素循環とその環境影響」

(11/19～22 つくば国際会議場)」を共催した。

- ・第 34 回近赤外フォーラム (11/20～22 北海道大学学術交流会館) を後援した。
- ・日本腐植物質学会第 34 回講演会 (11/23～24 東京農業大学 世田谷キャンパス) を協賛した。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会 (10/19)、論文賞等選考委員会 (10/19) および第 3 回理事会 (10/20) において、日本農学賞の候補者、日本土壌肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

第 64 回 日本土壌肥料学会賞受賞者

- ・高橋 正：火山灰土壌の多様性の解明－アルミニウム-腐植複合体の機能を中心に－
- ・豊田剛己：連作障害の原因となる土壌伝染性病原菌・線虫の生態、診断、防除に関する研究
- ・早津雅仁：土壌微生物の物質変換機構の解析とその未知機能解明への展開

第 24 回 日本土壌肥料学会技術賞受賞者

- ・原 嘉隆：水稲湛水直播のためのべんモリ種子被覆技術の開発

第 37 回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・須田碧海：還元状態の土壌における有害元素の溶出・不溶化に関する研究
- ・西田 翔：大規模塩基配列解析技術を利用した植物の低栄養条件に対する適応機構の研究
- ・仁科一哉：マルチスケールにおける土壌の炭素・窒素循環の空間変動要因の解明および定量評価に関する研究
- ・増田寛志：鉄・亜鉛栄養価の高いイネの作出に関する研究
- ・横正健剛：イネのアルミニウム耐性と鉄輸送に関与する MATE 遺伝子の機能解析

第 8 回 日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・齋藤 隆：農耕地における放射性セシウムおよび土壌残留性農薬による作物汚染低減技術の開発
 - ・速水 悠：施設栽培果菜類における灌水および施肥の適正管理技術の確立
 - ・安田知子：家畜糞堆肥化施設由来臭気の生物脱臭技術の高度化に向けた研究開発
- 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者
- ・金田吉弘、谷野弘和、高階史章、佐藤 孝、保田謙太郎：重粘土大区画水田における地下灌漑システム FOEAS が高温登熟条件下における水稲収量および外観品質に及ぼす影響
 - ・松中照夫、中村亜紀良、橋本亜弓：酸性黒ボク土の酸性矯正による施与リンの肥効改善効果は黒ボク土やリン資材の種類によって変化する

SSPN AWARD 受賞者

- ・Mei Li, Michiko Yasuda, Hiroko Yamaya-Ito, Masumi Maeda, Nobumitsu Sasaki, Maki Nagata, Akihiro Suzuki, Shin Okazaki, Hitoshi

Sekimoto, Tetsuya Yamada, Naoko Ohkama-Ohtsu & Tadashi Yokoyama : Involvement of programmed cell death in suppression of the number of root nodules formed in soybean induced by *Bradyrhizobium* infection

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

(1) 日本農学会関係

- ・平成 30 年度日本農学会シンポジウム「未来農学－100 年後の農業と農村を考える (10/13)」に協力した。当学会からは、舟川晋也氏・矢内純太氏が講演「ゼロ・エミッションの農業」を行った。

(2) 日本学術会議関係

- ・日本学術会議土壌科学分科会・IUSS分科会による提言「緩・急環境変動下における土壌科学の基盤整備と研究強化の必要性」要旨の英訳文を学会HPにリンクさせた。

(3) IUSS、ESAFS 等国際活動関係

- ・ヨーロッパ地球科学連合大会 (EGU、オーストリア・ウィーン) に代表者を派遣した (4/8～13)。
- ・ICSU: International Council for Science 総会 (フランス・パリ) に代表者を派遣した (7/2～7)。
- ・WCSS (ブラジル・リオ) に代表者および役員を派遣した (8/12～17)。
- ・ESAFS サポートオフィスの設置が承認された。

(4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・日本土壌肥料学雑誌 国内 10、国外 15
- ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 21

(5) その他

- ・第 17 回日本農学進歩賞を三輪京子会員 (北海道大学大学院地球環境科学研究院) が受賞した (11/30)。
- ・平成 30 年度「農業技術功労者表彰」を加藤 淳会員 ((地独)北海道立総合研究機構道南農業試験場長) が受賞した (12/15)。

5. 本学会の委員会等活動

(1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、日本学術会議の後援を受け、東京大学弥生講堂において開催した(5/12)。

(2) 土壌教育委員会

- ・委員会を 2 回開催した (4/21、8/29)。
- ・神奈川大会において「高校生による研究発表会」を大会 2 日目の 9:30～11:00 に開催し (8/30)、18 校 25 課題の発表が行われた。それぞれ発表者が説明し、大会参加者と熱心な質疑応答が行われ、最優秀ポスター賞 1 課題、優秀ポスター賞 3 課題を選出し表彰した。また、参加校のうち希望校 9 校に宿泊費の一部

を補助した。

- ・ 神奈川大会において、公開シンポジウム「いま改めて問う、土をどう教えるかー 土壌教育の再設計と未来の学習指導要領ー」を大会 3 日目の 13:00～16:00 に開催した (8/31)。

(3) 広報委員会

- ・ 学会 HP に「土と肥料」の講演会概要等の記事を掲載した。
- ・ 学会 HP に 2018 年度日本土壌肥料学会賞等授賞式・記念講演会の概要を掲載した。
- ・ 学会 HP に掲載した記事をフェイスブックにも掲載した。
- ・ 「エコプロダクツ 2018 (12/6～8 東京ビッグサイト)」に日本ペドロロジー学会と並んでブースを出展した。ブースには 500 名を超える見学者があった。

(4) 「国際土壌の 10 年」対応準備委員会

- ・ 企画、広報、渉外、教育及び部門長会議担当理事で組織する準備委員会を中心に、「国際土壌の 10 年」における日本土壌肥料学会の国際関連活動に対するご支援のお願いに関する趣意書、募集要項および支援申込書を作成し、会誌の発送に同封するとともにメールリングリストも活用し、広く寄付を呼び掛けた。

(5) 拡大財政基盤整備委員会

- ・ 大会運営支出の削減と参加者の利便性向上のため、講演要旨集を冊子体とせずにデジタル化して提供する方式について検討し、2019 年度静岡大会運営委員会に提案した。この方式では、大会参加に要する経費のうち、従来の登録費と要旨集代を一体化して新登録費とし、「従来の登録費+要旨集代」よりも「新登録費」の方が多少安くなるように設定した。なお、学生会員については負担増とならないよう配慮した。

(6) 男女共同参画学協会連絡会への対応

- ・ 女子中高生夏の学校 2018 ポスター展示・キャリア相談に出展した (8/10 国立女性教育会館)。ポスター展示のテーマを「生命と環境を支える「土壌」とは？」とし、実物の断面標本を用いて土壌の成り立ち、食糧・環境問題との関わり、注目されている研究テーマ等を解説した。
- ・ 連絡会が企画する「学術集会における演題発表者等の「属性調査」」に対応した。

6. 会務報告

(1) 会員の動向

1) 2019 年 2 月末における会員数は次のとおりである。

正会員 1,809 名 (うち会費免除会員 87 名、外国正会員 34 名)、賛助会員 37 団体、名誉会員 12 名、学生会員 361 名 (うち留学生 83 名)、国内団体購読会員 101 団体 合計 2,320 名 (団体)

2) 2018 年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会 : 正会員 66 名 (うち海外正会員 1 名)、学生会員 138 名 (うち留学生 28 名)、賛助会員 1 団体、国内団体購読会員 1 団体 合計 207 名 (団体)

退会 : 正会員 123 名 (うち会費免除会員 6 名、海外正会員 2 名)、学生会員 122 名 (うち留学生 24 名)、賛助会員 1 団体、国内団体購読会員 1 団体 合

計 247 名（団体）

(2) 会議

- 1) 総会：2018 年 5 月 12 日、東京大学弥生講堂において第 41 回通常総会が開催された。本総会においては、①2017 年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2018 年度事業計画案および収支予算案、③会費等の改定、④総会議事録署名人の選任について審議された。第 3 号議案「会費等の改定」については修正案が提案され、賛成多数で修正案が承認された。他の議案については、原案どおり承認された。その議事録を会誌 89 巻第 3 号に掲載した。
- 2) 理事会：学会事務所において 6 回開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、①神奈川大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成、②2018 年度選挙管理委員の選任、③会誌投稿規程・執筆規程の一部改定、④欧文誌特集セクションの提案、⑤学会賞等選考委員の選定、⑥第 41 回通常総会で承認された会費の改定、会費免除申請年齢の変更に伴う細則の一部改定、⑦大会講演要旨集のデジタル化に向けた検討、⑧ESAFS サポートオフィスの名称・運用法、⑨部門長の交代、⑩国際活動関連の諸案件、⑪2018 年度学会賞等及び論文賞等の選考結果の承認、⑫2019 静岡大会の予算案、⑬2020 年度年次大会の開催場所・日時・組織体制、⑭Rattan Lal 教授（日本国際賞受賞）の特別講演会企画、⑮若手会員海外渡航費の支援、⑯共催・後援・協賛等の申請・許諾、⑰細則 23 条による会費免除の申請、⑱入退会者の承認等について審議し、実施してきた。
- 3) 部門長会議：①第 1 回部門長会議はメール会議で実施した。神奈川大会におけるシンポジウムの公募に対して 8 件の応募があり、いずれも採択した。②第 2 回部門長会議（5/27）においては、神奈川大会のプログラム編成、シンポジウム企画案、ポスター賞の各部門への割当数及び審査スケジュール、部門長・副部門長の交代等について検討した。③第 3 回部門長会議（10/8）においては、静岡大会での第 9 部門の重複発表の承認、シンポジウムの採択方法・取扱い、次年度予算の積算、欧文誌への部門長会議からの提案等について検討した。
- 4) 2018 年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、平成 31 年度日本農学賞候補者、第 64 回日本土壌肥料学会賞、第 24 回同技術賞、第 37 回同奨励賞および第 8 回同技術奨励賞の受賞者を選考した（10/19）。その結果は第 3 回理事会（10/20）での承認を経て、会誌 89 巻第 6 号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と、SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第 3 回理事会での承認を経て、会誌 89 巻第 6 号に掲載した。
- 5) 会誌編集関係：①投稿状況については、以前に比べて報文・ノートの投稿数が少なく、講座・技術レポート等の拡充が必要である。②新しい試みとして、和文で広く紹介したい欧文誌論文があれば、著者自らが和訳して会誌に「資料」として掲載できるようにした。③日本土壌肥料学雑誌は第 88 巻 6 号（2017）まで、日本土壌肥料学会講演要旨集は第 64 集（神奈川大会 2018）まで J-STAGE に公開した。今後、日本土壌肥料学雑誌は発刊から 1 年後を目安に公開するが、会員に対しては ID・パスワードを入力すれば閲覧できるようにした。講演要旨集については大会終

了後できるだけ速やかに公開することとした。

- 6) 欧文誌編集関係：①投稿数は例年と変わらず、とくに問題はない。②部門長会議提案の欧文誌レビューの企画が進められている。③欧文誌掲載論文を和訳して会誌に「資料」として掲載するために T&F 社と翻訳権に関する覚書を交わした。④SSPN 特集セクションについては、Sensing-ICT (Research frontiers on the use of sensing technologies and ICT for soil and fertilizer managements) 等 3 件の企画が進められている。⑤第 1・6・7 部門の編集委員を 1 名ずつ増員した。⑥データ共有ポリシーを投稿規定に追加した。

7) 支部における会議

北海道支部：第 1 回支部評議員会 (6/11 於北海道大学エンレイソウ 札幌市)、第 2 回支部評議員会および支部総会 (11/29 於旭川市民文化会館 旭川市) が開催された。

東北支部：支部役員会および支部総会 (7/3 於青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ 青森市) が開催された。

関東支部：支部幹事会および支部総会 (12/1 於朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 新潟市) が開催された。

中部支部：162 回支部評議員会 (5/29 於名古屋国際センター 名古屋市) が開催された。163 回支部評議員会および 79 回支部総会 (11/29 於静岡大学静岡キャンパス 静岡市) が開催された。

関西支部：支部総会および支部役員会 (12/8 於松江テルサ 松江市) が開催された。

九州支部：支部常議員会、支部賞選考委員会 (9/12 於東海大学熊本キャンパス 熊本市) および支部総会 (9/13 於同会場) が開催された。

(3) その他

- ・若手会員の海外学会等の参加渡航費補助金支給者の選考を行い、前期 1 名、後期 1 名に渡航費の一部支援を行った。
- ・2020 年度年次大会は馬 建鋒氏 (岡山大) を大会運営委員長とし、2020 年 9 月 8 日 (火) ~10 日 (木)、岡山大学において開催することを決定した。